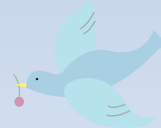
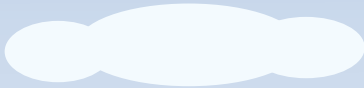


10年後の未来でも 「品質」が日本の競争力であるために ～私たちの社会への貢献～



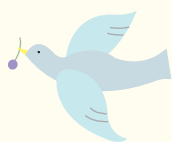
日科技連（日本科学技術連盟）は1946年に設立され、科学技術庁（現文部科学省）傘下の財団法人として70年以上にわたり、日本の科学技術ならびに品質管理、TQMを柱とした経営管理技術に必要な諸事業を総合的に推進し、人材の育成を図り、産業と学術・文化の発展に寄与することを目的として活動してきました。

「品質」がこれからも日本の国際競争力の源であるために、日科技連は様々な活動を通じて、社会に貢献していきます。



QC サークル活動 × 日科技連

日本から生まれた世界共通語「カイゼン」の原動力として、多くの現場で取り入れられている QC サークル活動。その全国組織の中核である QC サークル本部は日科技連に設立され、運営されています。活動事例の発表や交流の場として貴重な機会でもある QC サークル大会は、地区、支部、全国と様々なレベルで行われ、誕生から 50 年以上経った現在も盛大に開催されています。アジアを中心に海外でも広く普及し、人材育成としても重要な役割を担っている QC サークル活動は、日本企業の海外工場移転にも役立っています。日科技連では、QC サークル大会の運営の他、『QC サークル活動の基本』や『QC サークル活動運営の基本』、『QC サークル』誌等を発行するなど活動の普及に努めています。さらに、1979 年から実施している「QC サークル活動実態調査」は、自社と世間水準の比較など現状認識にご活用いただいております。日科技連はこれからも、QC サークル活動の発展に力を注いでいきます。



品質月間 × 日科技連

一朝一夕では成果を得ることができないといわれる品質活動。そして、その維持、向上が難しい活動ともとらえられています。日科技連では、日本規格協会、日本生産性本部、日本商工会議所など他団体の協力の下、品質活動の重要性を毎年再認識できるよう 11 月を品質月間と定め、月間テキストの発行、特別講演会の実施など、様々な仕掛けづくりを通じて品質意識向上活動に努めてきました。今年も 11 月になると、工場やオフィスに、ポスターや垂幕が貼られ、Q マークの入った胸章を身につけて働く人たちの光景を日本各地で目にすることができるでしょう。毎日の地道な活動だからこそ意識向上のための強化月間が必要であると考え、50 年以上の期間続けてきました。時代やビジネスモデルが変わっても品質が重要とされる限り、品質月間を継続していきます。

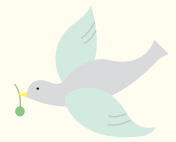
デミング賞 × 日科技連

品質活動に終わりはありません。身近にゴールが感じられない活動だからこそ、マイルストーン、つまり長い道のりの通過点は重要です。日科技連内に事務局を設置し、運営しているデミング賞は、総合的品質管理 (TQM) のマイルストーンとして、設立から 200 を超える組織に活用されてきました。その効果から、現在は海外からの申込みも増えています。デミング賞は、経団連会長が委員長を務めていることから垣間見られるように、受賞組織の品質レベル向上に効果があるだけでなく、受賞報告講演会を通じて活動の紹介が行われ、産業界全体に貢献しています。



若手研究者 × 日科技連

知識や経験の伝承は、少子化の日本において大変難しい課題のひとつで、品質管理界においても例外ではありません。日科技連では、大学生、大学院生に書記として参加いただいているセミナーがあります。60年の歴史を誇る「品質管理セミナーベーシックコース」には、将来の品質活動を担う経営工学系の大学生、大学院生、そして、生物統計家を育成する「臨床試験セミナー 統計手法専門コース」には、将来、製薬企業や CRO、医療機関、大学などで幅広く活躍する大学院生に各回数名参加いただいています。また、品質教育が続いていくために、東京大学に寄付講座を設け、その研究、運営の支援をさせていただいております。次世代につなぐ活動も日科技連の使命と考えています。



研究開発 × 日科技連

現在も様々な職場で活用されている QC 七つ道具をはじめとする品質手法や統計手法、その多くが日科技連の研究会、部会などの会合がきっかけとなり誕生しました。普段、当たり前のように使われている便利な手法も、はじめから存在していたものではなく、産業界から様々な業種の方が集まり、また事例を持ち寄り、学界の方とともに体系的に取りまとめ汎用化されたものです。今となっては、どこでも耳にする「PDCA」の誕生にも、日科技連が寄与しています。このような、産学界の総力を結集した日科技連における長年の取り組みが、その誕生に大きく貢献しています。これからも日本の産学界に広く流通するツールの研究開発をお手伝いしていきます。



これらの日科技連の活動は、日科技連賛助会員の皆様からお預かりした賛助会費の一部を活用し、運営しています。

QC サークル本部がなかったら、品質月間がなかったら、便利な統計手法が生まれなかったら……。そして、10年後も、20年後も、品質が日本の国際競争力であり続けるために、ぜひ日科技連の活動にご賛同いただき、賛助会員への入会をご検討ください。

賛助会員に関するお問い合わせ先

一般財団法人 日本科学技術連盟 業務管理センター 広報・国際グループ

TEL: 03-5990-5846 E-mail: jusepr@juse.or.jp

